



卒業・進級おめでとう！！

先日、「6年生を送る会」が行われました。6年生への感謝とお祝いの気持ちを込めて、各学年の子供たちが合奏や合唱を披露したり、お祝いの言葉の呼びかけをしたりしました。先生方もお祝いのメッセージとともに「365日の紙飛行機」を歌いました。

そして、6年生がお礼の気持ちを込めて、合奏と合唱を披露してくれました。「さすが！6年生」というべき、すばらしいものでした。特に私は、合奏のすばらしさに感動し、成長を感じました。

最後は、全員で「君とぼくのラララ」を歌いました。会場は、お互いへの感謝の気持ちでいっぱいになったように感じました。心がほっこり温まるいい会でした。

この会を中心になって準備し、進めてくれたのは、5年生です。きっと、今の6年生に負けないくらい立派な境野小のリーダーとなってくれることでしょう。

まもなく卒業式の練習が始まります。この5年生、6年生なら、絶対いい卒業式になると思います。そして、6年生をいい気持ちで送り出したいと思います。



(1年生は、全校児童を引っ張ってきた6年生に敬意を表して、大きなカブを引っ張りました。)

発達障害への理解を！

- ・忘れ物や大切なものでもなくしてしまうことが多く、うっかりしたミスを何度も繰り返してしまう。周りからの刺激があると気が散りやすいことから注意力散漫とも言われる。
- ・「静かにしましょう」という簡単な指示にもおしゃべりが止まらなかったり、席に着いていられずに歩き回ったりしてしまう。座っていても、モジモジと手や体を動かし続けてしまう。
- ・興味あるものを見たり聞いたりすると興奮しやすく、思いついたことをすぐに声に出してしまったり突発的な行動をしてしまうなど、衝動を抑えるのが困難。順番を待つことや我慢することが苦手で、イライラしやすく、思い通りにいかないとき細なことで手が出てしまうこともある。
- ・叱られることや注意されることが多くなると、自信を失ったりやる気を失ったりしてしまいやすい。

上の□の中の説明は、先日開かれた「桐生市青少年問題協議会」の資料から抜粋したものです。

この文章は、「注意欠陥・多動性障害（ADHD）」という発達障害の特徴を示しています。この障害をもっていたと推測される有名人には、坂本龍馬、ケネディ大統領、黒柳徹子、スティーブ・ジョブズなどがいるそうです。

発達障害については、これまでも境野小だよりで何度か取り上げました。おそらく最後になるであろう「境野小だより」で、再度この問題を取り上げたのは、こうした子供たちがたくさんいるのに、周囲の大人たちの理解が進んでいないと感じているからです。

発達障害は、生まれつきの発達の偏りが関係していると考えられており、育て方やしつけによって起こるものではありません。そのため、その子の発達特性にあったサポートが必要で、ただしつけを厳しくしても症状を改善することはできません。



この「サポート」を適切に行うためには、発達障害への理解が必要です。理解が必要な人は、親、祖父母等家族、教師、友達の保護者など、この子にかかわるすべての人です。

親だけで十分では？と思う方もいらっしゃるでしょう。でも、良かれと思って周りの人が行う育児へのアドバイスや声かけによって、かえって親や子供が傷つき、自分を追い込んでしまうことが多々あるのです。それは、周囲の人たちの無理解によるものです。「個性」とか「問題児」とかで片付けるのではなく、正しく理解し、適切なサポートをお願いします。

では、表の□に書いてあるような特性を持ったお子さんに対して、どんなサポートをすればよいのでしょうか。もちろん、叱ってもほとんど効果はありません。

この子の特性の一つは「気が散りやすい」ということです。ですから、学習するときは、余計なものを片付けたり、テレビを消すなど静かな環境の中で行ったりするとよいでしょう。

学校では、授業に集中しやすくするために、子どもが興味を示すであろう視聴覚教材や模型・実物などを活用したり、考える時間を3分間、5分間など限定したり、板書を短いキーワードや箇条書きで書いたり、作業を取り入れたりするなど工夫しています。

また、「衝動を抑えるのが困難」という特性もあります。感情が高まって、かんしゃくを起こしたときは、場所を移してクールダウンさせるとよいでしょう。こういう方法を自分なりに習得し、感情が高まって抑えられなくなりそうになると、自分からその場を離れ、教室の隅などに行ってクールダウンする子もいます。このとき、周りの子は、挑発したりせず、その子がクールダウンできるよう協力することが必要です。こういうことが自然にできるようになっている学級もあります。



発達障害を持つお子さんは、小さいときから叱られたり注意されたりする経験をたくさんして、自信を失っている子もいます。気持ちの立て直しに時間がかかったり、尾を引きやすかったりする傾向もあります。また、過去の失敗経験の積み重ねから物事を否定的に捉えやすく、感情のコントロールが苦手です。

こうしたお子さんには、自己肯定感を持たせることが大切です。そのため、他の子供との比較でなく、その子の中でよくできたことを十分に認めるなど、お子さんを肯定的に受け止めるようにしましょう。

また、安定して過ごせるよう、生活リズムを整えたり、安心できる場所を準備したりすることも大切です。

専門の病院や桐生市の通級指導教室では、お子さんへの「ソーシャルスキル・トレーニング」や、保護者への「ペアレント・トレーニング」などを行っているそうです。

心配なときは、担任にお話してください。